

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 51 号 平成 22 年 2 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488885

尾張市中平野北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## 迅速診断キットの利点と功罪

小児科部長 安藤 郁子



現在多くの迅速診断キットが診療に活用されています。当院でも鼻咽頭ぬぐい液から溶連菌、アデノウイルス、インフルエンザ、RSウイルス、便からロタウイルス、尿から肺炎球菌、血液からマイコプラズマ感染症などを迅速キットで診断しています。それぞれのキットの感度、特異性などから有用性が極めて高いものからそうでないものといろいろあるようですが、とにかく迅速キットで陽性にでると「原因はこれです！」と最近のマニュアル化された医師頭の私達と患者さん達にとって病状説明がスナリいくという利点があります。一方感染症が明確になると院内感染の観点から病室の確保が難しいこともあります。とにかく感染症が主な疾患の小児科としましては、病棟では汚染物質扱い・・・インフルエンザはもとより、胃腸症状だとロタ腸炎かどうか、呼吸器症状だとマイコプラズマかどうか、アデノウイルスはインフルエンザと同様に個室に入れなどなど。病棟に入院の連絡をすると感染対策に熱い看護師さん達の高いバリアを克服しなければならず、部屋のやりくりの難しさを考えればある意味功罪なのかもしれません。しかしあくまで臨床症状と理学所見から診断をしていく姿勢は失ってはいけないという症例もありました。先日、発症後48時間以上たってもインフルエンザ迅速法は陰性、マイコプラズマIgM抗体陽性でマイコプラズマ肺炎と診断した男児が、呼吸状態がみるみる悪くなり、マイコプラズマ肺炎にしてはレントゲン所見や臨床経過が違くと相棒の桑原先生は臨床医のカンを信じて、強気に保健所に頼み込んでPCRをやってもらったら新型インフルエンザと診断され、リレンザ投与で事なきを得ました。迅速診断キットの落とし穴だ！肝に銘じた症例でした。

# 加齢黄斑変性の原因と予防

眼科部長 玉置 力也



加齢黄斑変性（AMD）は発症すると失明につながる重大疾患です。加齢黄斑変性は多因子疾患で遺伝的要因、環境因子もありますが、網膜の酸化ストレスが大きな原因です。

眼は光を感受する臓器ですが、そのため光による酸化ストレスを受ける宿命にあります。網膜は酸化ストレスに対する防御機構を有しています。視細胞外節は常に新しく再生しており、古くなった先端部は網膜色素上皮（RPE）細胞が貪食して処理しています。しかし、酸化した物質が消化されないとRPE細胞内にリポフスチンという微粒子となり蓄積していきます。リポフスチンの蓄積が著明になるとRPEの下に脂肪が沈着していきます。そうすると脈絡膜経由の網膜代謝が障害され、ついにはAMDが発症します。

AMDを予防するにはどうしたらよいでしょうか。まず、過剰な光線、特に酸化ストレスの強い紫外線・青色光から眼を守ることです。外出時には帽子とサングラスで95%以上の紫外線カットが得られるといわれています。サングラスの色が濃いと散瞳するため、レンズと顔の間隙から眼内に入射する光が増える可能性があり、色はむしろ薄いほうが良いです。ヒトの水晶体は紫外線、青色光をカットする性質があります。加齢とともに水晶体は黄色になり青色光をカットする割合が増してきます。しかし、白内障手術で黄色の水晶体を摘出し無色の眼内レンズ挿入眼になると、手術前よりものが青っぽく見える青視症を訴える患者がいます。また、白内障手術後の眼は、手術していない眼よりAMDの発症頻度が高いといった報告もあります。そこで、現在は黄色に着色された青色光をカットする眼内レンズが使われるようになって来ており、当院でも積極的に使用しています。

酸化ストレスを緩和することもAMDの予防には重要です。抗酸化物質（ビタミンC、ビタミンE、食事性亜鉛など）を多く含む食事をするように心がけましょう。サプリメントも販売されています。青魚に多い $\omega$ -3脂肪酸もよいとされています。最後に、喫煙は多くの研究でAMDの危険因子（AMDの危険因子で確実なのは年齢と喫煙だけ）とされているので、禁煙は最も重要です。

